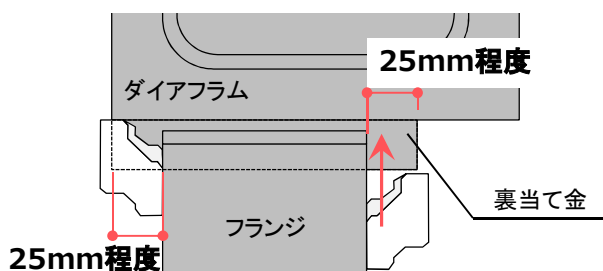


**EGアークタブを使用した溶接施工は下記図書（最新版）等を遵守して実施して下さい。**

- ①日本建築学会 建築工事標準仕様書(JASS6 鉄骨工事)
- ②日本建築学会 鉄骨工事技術指針・工事現場施工編(2007年改訂)
- ③日本建築学会 鉄骨工事技術指針・工場製作編(2007年改訂)

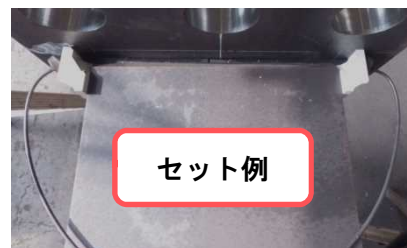
### EGアークタブを使用した溶接施工上の注意点

- ・裏当て金は母材端より25mm程度長いものを使用して下さい。

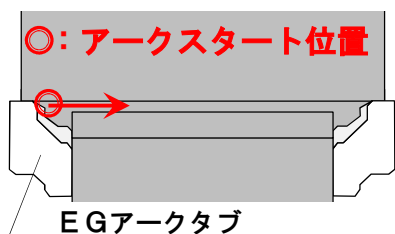


EGアークタブは、フランジ外側に18mm程度余盛が出ます。溶着金属の溶け落ちない程度に裏当て金の長さを選定して下さい。

- ・EGアークタブは、鋼線・マグネット治具等により母材と密着するようにしっかりと固定して下さい。



- ・アークスタート位置はフランジ外側を推奨致します。



EGアークタブは、溶接欠陥の生じやすいアークスタート位置をフランジ外側とすることで、フランジ内の溶接欠陥の発生を低減させます。バックステップ等により、アークスタート位置をフランジ内側とした場合、効果を発揮できない恐れがあります。



- ・最終層は、フランジ端部の角落ち（アンダーカット）等に気を付けて仕上げして下さい。
- ・溶接終了後は、EGアークタブを完全に除去し、（外観検査・UT検査によって）ビードの不整・有害な欠陥の有無を確認して下さい。

### EGアークタブの保管上の注意点



- ・水気を避けて保管して下さい。

EGアークタブは乾燥した状態でご使用ください。

水分が付着した場合は、ガスバーナーや乾燥炉で乾燥した後、ご使用ください。

本書の中で特に注意していただきたい事項については、以下の警告表示を記載してあります。



一般的な注意を喚起する表示

旭化成建材株式会社

201701

札幌：011(261)5443 大阪：06(7636)3847  
仙台：022(223)8171 中四国：082(511)5110  
東京：03(3296)3510 福岡：092(526)2104  
名古屋：052(212)2231